

第9回 北陸銀行若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名	助成金額
鈴木 暁世	歴史言語文化学系・准教授	710,000 円
研究課題名	日本演劇の世界展開とプロパガンダ—郡虎彦(こおりとらひこ)戯曲の英語圏での上演と評価を手がかりに—	
研究の概要	<p>本研究課題は、日本文学・演劇と英国・アイルランドの近代文学・演劇との相互影響関係及び日本演劇の国際展開を、当時のロンドン及びダブリンにおける上演記録や新聞・雑誌の調査、及び、日本の対外プロパガンダ活動と演劇の関連を示す外務相外交資料によって明らかにした。特に、女性参政権運動家・文学者によって受容・評価された郡虎彦の戯曲の芸術性と社会批評性が、日本側の対外プロパガンダの一環としての活動とどのように関わっていたのかという問題を検討することで、日本の文化・芸術の海外展開と宣伝・外交活動について、広範な視野で考察した。資料の発掘・整理と同時に、こうした相互交渉の原因と過程を総合的に考察した。</p>	
研究の成果	<p>英国・アイルランドにおける郡虎彦らの演劇上演の実態調査と並行して、日本における英国・アイルランド文学受容について日本で資料調査を行った。これまでの英語圏におけるジャポニスム・黄禍論研究を踏まえ、郡虎彦の戯曲上演を促した背景として、東洋を舞台とした演劇やミュージカルを調査し、さらに当時のエキゾティシズムを流用し流行させた日本人（郡虎彦、野口米次郎、伊藤道郎、久米民十郎ら）の足跡及びその影響を発掘し、彼らと外務省による宣伝活動との関わりを示すプロパガンダ関連資料を整理・分析した。</p> <p>2017年7月には、国際学会 EAJS において、シンポジウム「日本の近代文学と教育」を企画し、日本の近代演劇とプロパガンダに関する口頭発表"(Made to) Act out Farmers: The Educational Aspects of the Japanese Peasant Literature Movement," The 15th EAJS International Conference (European Association for Japanese Studies, Lisbon: The Universidade NOVA, 31 Jul 2017)を行い、専門家らと意見交換した。さらに、2017年12月には、アイルランドの日本研究拠点であるトリニティ・カレッジ・ダブリンにおいて開催された国際シンポジウムにおいて、日本とアイルランドの演劇を媒介とした文化交流について口頭発表 The reciprocal influence of Japanese and Irish literature: W. B. Yeats and the Japanese peasant literature movement in the early 20th century (International Symposium Japanese Studies in a global context: The art of friendship, Dublin: Trinity College Dublin, 1 Dec 2017)を行い、研究成果を公開した。この大会は日本とアイルランドの国交樹立60周年を記念して開催されたもので、両国の関連研究者が集結したため、アイルランドの主要な日本研究者と議論・意見交換することが出来、今後の研究協力において大きく前進した。</p> <p>国内においても、日本イェイツ協会第53回全国大会におけるシンポジウム「イェイツ再読〈世界文学〉として」において、口頭発表「戦間・戦時期の日本におけるイェイツ」(於・中央大学多摩区, 2017年11月16日)を行った。また、日本の近代演劇と国策との結びつきを指摘し、「農民劇の理論と実践—中村星湖の活動を起点として—」(会議名: 近現代演劇研究会3月例会, 於・神戸松蔭女子学院大学, 2018年3月3日)及び「「明るい農民演劇」をめぐって—総動員体制下の演劇運動の特質と実践—」(会議名: 「演劇—民衆文化と芸術の境」, 於・金沢大学, 2018年3月15日)で発表した。</p> <p>2018年8月, 2018年3月には、英国における演劇研究の拠点である V&A 及び大英図書館において、郡虎彦「鉄輪」「義朝記」に関する劇評を調査・収集し、特に「義朝記」がロンドンにおいて日本のプロパガンダ演劇であると報道されていた事実を突き止めた。さらに、英国国内において郡虎彦の演劇が日本政府のプロパガンダであるという批判に対しての在英日本大使館の声明及びそれに対する英国国内メディアの反応を明らかにする資料を発見・収集できた。これらの研究成果に関しては、2018年6月に開催される有島武郎研究会シンポジウムでの研究発表を懇請されている。</p> <p>ヨーク大学の大学出版会から刊行される日本とアイルランドの交流に関する研究論文集 <i>Crossing</i> に寄稿した論文 The Reception of Irish Literature and the Image of 'CELTS' in</p>	

Modern Japan: Lafcadio Hearn's Writings and 'National Characteristics' が査読を通り、校正を完了した (2018 年刊行予定)。両国の専門家が寄稿する研究論文集を刊行する両国の大規模研究プロジェクトにおいて、近代における日本とアイルランドの文化的相互交渉についての研究成果を発表することが出来た。その他にも共著書として、「日本文学の翻訳に求められたもの グレン・ショー翻訳、菊池寛戯曲の流通・書評・上演をめぐる」、『日本文学の翻訳と流通 近代世界のネットワークへ』(河野至恩・村井則子編, 勉誠出版, 2017 年 12 月 25 日, 277 頁, 49-66 頁) 及び「郡虎彦「鉄輪」における古典と近代—「丑の時詣り」表象の受容をめぐる—」(『古典演劇研究の対象と視点』, 西村聡編, 2018 年 1 月 20 日, 全 132 頁, 99-116 頁) を刊行した。研究成果の一般への公開・還元としては、『東京新聞』『北陸中日新聞』他「大波小波」欄「愛蘭土文学に光を」(2017 年 12 月 15 日掲載) という記事において、研究代表者の著書『越境する想像力』(大阪大学出版会, 2014) が紹介され、アイルランド文学が大正から昭和期にかけての日本での流行及び演劇や文学作品を媒介とした日本とアイルランドの相互交渉に関する研究代表者の研究が紹介された。

【学会発表】

1. Akiyo SUZUKI, "(Made to) Act out Farmers: The Educational Aspects of the Japanese Peasant Literature Movement," The 15th EAJS International Conference (European Association for Japanese Studies), Lisbon: The Universidade NOVA, 31 Jul 2017.
2. 鈴木暁世「戦間・戦時期の日本におけるイエイツ」(会議名: 日本イエイツ協会第 53 回大会シンポジウム「イエイツ再読 〈世界文学〉として(2)」, 於・中央大学(多摩区), 2017 年 11 月 16 日)
3. The reciprocal influence of Japanese and Irish literature: W. B. Yeats and the Japanese peasant literature movement in the early 20th century (International Symposium Japanese Studies in a global context: The art of friendship, Dublin: Trinity College Dublin, 1 Dec 2017.
4. 鈴木暁世「農民劇の理論と実践—中村星湖の活動を起点として—」(会議名: 近現代演劇研究会 3 月例会, 於・神戸松蔭女子学院大学, 2018 年 3 月 3 日)
5. 鈴木暁世「「明るい農民演劇」をめぐる—総動員体制下の演劇運動の特質と実践—」(会議名: 「演劇—民衆文化と芸術の境」, 於・金沢大学, 2018 年 3 月 15 日)

【図書】

1. 鈴木暁世「日本文学の翻訳に求められたもの グレン・ショー翻訳、菊池寛戯曲の流通・書評・上演をめぐる」、『日本文学の翻訳と流通 近代世界のネットワークへ』(河野至恩・村井則子編, 勉誠出版, 2017 年 12 月 25 日, 277 頁, 49-66 頁)。
2. 鈴木暁世「郡虎彦「鉄輪」における古典と近代—「丑の時詣り」表象の受容をめぐる—」, 『古典演劇研究の対象と視点』, 西村聡編, 2018 年 1 月 20 日, 全 132 頁, 99-116 頁。
3. Akiyo SUZUKI, The Reception of Irish Literature and the Image of 'CELTS' in Modern Japan: Lafcadio Hearn's Writings and 'National Characteristics,' *Crossing*, Cork: Cork University Press, (校了済, 2018 年刊行予定)

【新聞掲載】

『東京新聞』『北陸中日新聞』他「大波小波」欄「愛蘭土文学に光を」(2017 年 12 月 15 日掲載)

経費の執行状況	費目	事項 (主な使用事項を記載)	執行額(円) (費目毎総額を記入)
	物品費	関連図書・資料購入費	70,414
	旅費	ロンドン調査 2 回、国立国会図書館調査、筑波大学での研究会等	578,756
	人件費・謝金	コーク大学出版会刊行の論文集への寄稿論文英文校正	6,650
	その他	トリニティ・カレッジ・ダブリンでの国際シンポジウムでの発表英文校正、大英図書館複写費等	54,180